

網權衆發行
印刷人 岡田弘成
印刷所 幣城時報社
發行所 幣城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十四字詰五十錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

路線問題の全貌明らかにす

大嶺氏先づ起つ

同盟會の
結成から
上京運動迄の
経緯

半谷氏

先づ開辭に代
 へて資源開發
 と交通問題を
 説き「片濱町
 村の繁榮、即
 ち平市の繁榮
 であり漁港に
 多額の經費を
 投じながら鐵
 道を敷かなれ
 ばは佛作つて
 現を入れずで
 ある」と喝破、日本人の強い理
 由と海産魚類の重要性に論及
 大嶺市議 登壇「今回の
 催しは當初開催の豫定無かつた
 が日曜日の午後
 重大問題
 を發し、警察側から再三注意を
 受けて通知を二十七區長に止め
 た点を辯明、昭和十二年十月六
 日の市會で「白紙還元運動」を
 決議した當時の市會狀況を詳細
 に説明
 片濱でも湯本でも市民にとつ
 て同一利益で無い限り、どこ
 らでもよい運動は意義を爲さ
 ず、何れでもよい運動に多額
 公費を費つてゐる
 と市民を代表する市會議員であ
 りながら市民の福利を無視して
 る点をや論し、當時中央の政
 治家は「平小鐵道が昭和十五年
 度まで延期された」と傳へてゐ
 たので片濱線の運動を中止して
 るた處、舊曆十九日突如、湯

情報が飛び込んだ、と今次の運動に入つた経路を説明

片濱運動に刺戟され田尻前鐵道政務次官が片濱線に有利な資料を蒐集、一月九、十兩日に亘つて現狀調査のため來縣すること決定、片濱經由問題は俄然好轉、議會再開前に決定する空氣濃厚となり、田尻次官の來郡に期待かけてゐた矢先近衛内閣が更迭して總てが再び新しい問題と成つた、一時は渺からず失望したが内閣のために吾々の運動を放棄すべきものでないと思ふ意志を強め、期成同盟會を結成した、前田新鐵相は、片濱の輿論を考慮地方産業開發を目的とするものと思ふから、同盟

市長との一問一答

滿場一致削除迄の顛末

<p>陳情運動から隔年して十五日午後三時半頃、今陳情書を市役所で書いてゐたが片落運動の陳情書か」と或る人が注意を受け調査の結果、白紙還元運動の陳市長「許可を與へた」</p>	<p>市長の許可なくして委員は出られないのでないか」と質問されたのに市長は確答されてゐる</p>
--	--

情書で然も内容には

大嶺「市長は陳情に賛成したか

依つて鐵道省の御

「選定に異議無之候」と書き然も末尾に青沼市長の署名添印があつたので驚いた市長、助役が役所に居ることを確めて駆けつけ市長と會見、大嶺「市長は陳情委員の上京をと」

伊藤助役「そうでしたかね」と酒井主事を呼び書頭を見て助役「これでは成程賛成議員十
五名でしたね、訂正しませう
と」満場一致の点は削除する

「許可したか？」
市長「行きたいと云ふから許した」

大嶺一瀟場一致とは誰れが書いたか」

大嶺「陳情員を誰れが選んだ」

全く寝耳に水の

白紙還元決議

多田井氏。暗黒市會痛罵

多田井市議 平小鐵道路

線問題には町制時代には溝堀一致で片瀬線を決議されてゐる、或いは一人位反對があつたか
白紙還元なる決議した當日の市會で、關内氏は當日提案の事項全部議了したので、白紙と白紙還元決議問題の一致と暗黒政治を痛罵、「この來會者中

片渚に賛成で無い者も居るやうに私の眼に映つてゐるなら、密漏洩を防ぐため、裏をかさないやう、全部打明けられなと釘を打ち、助川代議士の言を借りると

昭和十一年に片濱町村が陳情するときは濱通り選出の三代議士中一名も頼るに足る代議士は居なかつた、當時石城からは北左、鈴木兩代義士が出て

内田鐵相が昭和會
なごの關係から、ご

「さくさになぎれ」
過地を決めたやう
たつたさ見てゐる」
田鐵道大臣が判を押して一度
路線の決定したことを明かに
更に中島鐵相に至つて『鐵
道設は地方民の總意を無視す
とは出来ない』と路線を輕
と疑問符を述べて洪笑起る
致し方なく當時他地方出身の
助川代議士を煩はしたとか、
今度も助川代議士の助力を請
ふてゐる

運動は當然のこと

輿論は無視せぬ

運動の繼續最も肝要

を更に今回の白紙還元運動陳謝の辭を述べ『今日の報告を聽いて片濱運動の内容を知つた、この趣旨を當局に納得せしめるやう努力し、目的達成に向つて最後まで邁進するやう希望し、吾々も及ばずながら指導を受けて善處する考へであると激勵して午後十時二十分意義深い報告會を終つた』

天氣豫報

明日は雨又雪次第に良くなる

債券・公債

多田井質店

平市大工町 電五九



店商屋釜

電九・九九番

